

# 新潟県畜産経営の持続的な発展方針

令和8年3月策定

新 潟 県

## 1 基本的な考え方

本県の畜産は、地域の農業と食料供給を支える重要な産業であるが、近年、飼料価格の高騰や生産資材費の上昇、担い手の減少、家畜疾病リスクの増大など、経営を取り巻く環境は厳しさを増している。

こうした状況を踏まえ、将来にわたり本県の畜産を持続的に発展させていくため、県及び関係機関・団体が一体となって経営体質の強化を図り、収益性の高い経営体の育成を推進する。

## 2 本県畜産の目指す姿

生産性と収益性が高く、環境と調和のとれた安全で安心な畜産物を安定的に供給できる「儲かる畜産経営」を実現することで、若者が魅力を感じる活力ある本県畜産業を目指す。

## 3 推進目標

本県畜産の目指す姿を実現するため、安定的な生産が可能な飼養規模や県産飼料基盤の確保、省力化技術の導入等により生産基盤の強化を進めるとともに、畜産物のブランド力強化や生産性の向上、コスト低減を図ることで、収益性の高い畜産経営体を育成し、畜産産出額の拡大を推進する。

### 主な取組分野

- ・担い手の規模拡大等による生産基盤の強化
- ・生産性向上及びコスト低減による所得の確保
- ・家畜伝染病の発生予防とまん延防止体制の強化
- ・県産畜産物の付加価値向上と消費拡大
- ・環境と調和のとれた畜産の推進

#### 【推進期間における成果指標】

- 酪農経営モデル※の構築 : 2経営体
- 県内生乳生産量の確保 : 36,000トン
- 「にいがた和牛」の生産拡大（出荷頭数） : 2,400頭
- 特定家畜伝染病の発生防止（発生件数） : 0件

#### 【畜産産出額の目標】

現状（令和5年）504億円 → 目標（令和12年）541億円

#### ※ 酪農経営モデルとは

水田を活用した飼料生産と堆肥利用による耕畜連携体制を整備し、搾乳ロボット等の省力化機械を備えた低コスト大規模牛舎を導入により、効率性と持続可能性を両立して週休2日を実現する経営モデル

## 4 推進期間

推進期間は、「新潟県酪農・肉用牛生産近代化計画書」と合わせ、令和8年度から令和12年度までの5年間とする。

## 5 本県畜産の目指す姿の実現に向けた取組

### （1）担い手の規模拡大等による生産基盤の強化

- ・省力化機械の導入や公共牧場等との連携強化を進め、労働負担の軽減と担い手の確保を図るとともに、規模拡大を推進する。
- ・就農研修への参加や酪農ヘルパー等による技術習得を支援し、人材育成体制を充実する。
- ・ヘルパー体制の維持と機能強化を図り、家族経営の安定的な発展を支援する。
- ・地域にある畜産資源の有効活用を進め、経営継承に関するマッチングを支援する。
- ・ICT・スマート技術の活用により省力化と労働時間の縮減を図り、意欲ある担い手による規模拡大を支援する。

## (2) 生産性向上及びコスト低減による所得の確保

- ・1頭当たりの乳量の増加による生産性向上を図るため、牛群検定データやゲノミック評価の活用等を支援する。
- ・「にいがた和牛」の一層の高品質化・差別化を進めるため、繁殖雌牛の遺伝的能力向上や枝肉脂質測定データの活用、全国規模の和牛共進会での上位入賞を目指す戦略的な取組を推進する。
- ・水田を活用した飼料生産と堆肥利用による耕畜連携を推進し、輸入飼料への依存度低減と持続可能な飼料基盤の確立に加え、食料安全保障の確保を図るため、県産粗飼料の生産拡大に必要な機械・施設整備を支援するとともに、地域畜産クラスター等と連携してコントラクター組織の育成や安定供給体制の構築を支援する。

## (3) 家畜伝染病の発生予防とまん延防止体制の強化

- ・家畜飼養者の防疫意識の向上と飼養衛生管理基準の遵守を徹底することで、家畜伝染病の発生予防を図る。
- ・異状の早期発見・早期通報を徹底するとともに、発生時には迅速な初動防疫体制を維持し、まん延防止体制の強化を図る。
- ・大規模農場における分割管理の検討や処分家畜等の適切な処理方法の検討を進め、効率的かつ持続可能な防疫措置を推進する。

## (4) 県産畜産物の付加価値向上と消費拡大

- ・生産者や畜産関係者、生産者団体等が連携し、畜産体験イベントの実施や安全な県産畜産物の提供等を通じた理解促進の取組を進めるとともに、県民への情報発信を強化することで、畜産に対する理解醸成と県産畜産物の消費拡大を図る。
- ・「にいがた和牛」を県推進ブランド品目に位置付け、観光地等との連携による喫食機会の拡大、販促資材を用いた通年での露出強化、イベント等による情報発信を通じて、理解醸成と消費拡大を推進する。
- ・家畜の生産段階における危害要因分析・必須管理点（HACCP）の考え方を取り入れた飼養衛生管理の取組を推進する。
- ・県民に安全で新鮮な県産食肉を安定的に供給するため、県内食肉センターの再編検討を進め、必要な食肉処理機能の確保を図る。

## (5) 環境と調和のとれた畜産の推進

- ・耕種農家のニーズに応じた良質堆肥の生産を進めるとともに、散布の省力化や流通の円滑化を図るため、ペレット化等による取扱性の向上や化学肥料との混合等による肥料成分の安定化に取り組む。
- ・畜産経営の点在化や混住化の進展を踏まえ、臭気対策や污水対策の重要性が高まっていることから、ニオイセンサー等を活用した「臭気の見える化」により効率的な対策を推進する。

## 6 畜種別方針

### 【酪農】

- 県内の牛乳等の需要に見合う生乳生産量を安定的に確保するため、収益性の高い経営体を育成する。
  - ・中小規模経営体における高齢化の進行に対応するため、規模拡大や法人化等を支援し、生産基盤の強化を図る。
  - ・価格変動の大きい輸入飼料から、水田を活用した県産飼料への転換を推進する。
  - ・水田を活用した飼料生産や堆肥利用による耕畜連携体制を整備した上で、省力化機械を備えた低コストの大規模牛舎を導入する新たな酪農経営モデルを構築し、規模拡大が進まない本県酪農の構造改革を推進する。
  - ・意欲ある担い手による規模拡大と牛群改良による生産性向上を支援し、県内需要を安定的に満たす生乳生産量の確保を図る。
  - ・規模拡大に伴う労働力不足や飼料基盤の不足を補うため、公共牧場を活用した育成体制を推進する。

### 【肉用牛】

- 県推進ブランド「にいがた和牛」の生産拡大とブランド力向上を図る。
  - ・中小規模経営体における高齢化の進行に対応するため、規模拡大や法人化等を支援し、生産基盤の強化を図る。
  - ・価格変動の大きい輸入飼料から、水田を活用した県産飼料への転換を推進する。
  - ・「にいがた和牛」のブランド力向上を図るため、繁殖雌牛の遺伝的能力の向上や枝肉脂質測定データの活用等により需要拡大を促進するとともに、品質確保及び全国的

な知名度の向上を通じた消費拡大を進め、需要に応じた安定的な供給体制の構築に向けて出荷頭数の拡大を目指す。

### 【養豚】

- 経営の法人化を加速し、収益性の高い経営体を実現する。
  - ・家畜の伝染性疾病の発生を防ぐため、適切な飼養管理を推進するとともに、衛生管理区域及び畜舎への病原体侵入防止対策を重視し、飼養衛生管理基準の該当項目について重点的に確認・指導を行う。
  - ・法人化の推進、規模拡大及び生産性向上等による高い収益性確保のため、経営発展計画の作成や畜産クラスター事業等を活用した機械・施設整備を支援する。

### 【養鶏】

- 企業経営として、個々の経営戦略に基づく規模拡大を推進する。
  - ・家畜の伝染性疾病の発生を防ぐため、適切な飼養管理を推進するとともに、衛生管理区域及び畜舎への病原体侵入防止対策を重視し、飼養衛生管理基準の該当項目について重点的に確認・指導を行う。
  - ・個々の経営戦略に基づいた規模拡大や生産性向上に向け、畜産クラスター事業等を活用した機械・施設整備を支援する。

## 7 推進体制

### (1) 県段階

- ・県、市町村、新潟県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会新潟県本部、新潟県農業共済組合、新潟県酪農業協同組合連合会、公益社団法人新潟県畜産協会、畜産生産者団体等の関係機関・団体がそれぞれの役割を果たし、本方針に基づく畜産の生産振興、販売促進及びPR等の各種取組を総合的に推進する。
- ・先進的な実践事例集の作成や研修会等を通じて、これまでに得られた先進事例の横展開を図り、産地が抱える課題の解決に向けた取組を推進する。

### (2) 地域段階

- ・市町村、農業協同組合、農業共済組合及び県が一体となって構築する地域畜産クラスター協議会の体制を活用し、流通・実需関係者等の参画も得ながら、生産拡大に向けた取組を推進する。